

## 活動中間ビジュアル報告書

**団体名：**一般社団法人えんがお

**テーマ：**多くの人を巻き込み、世代、立場、障害の有無を超えた「全世代参加型のごちゃまぜのまちづくり」

**活動背景：**新型コロナウイルスの影響により、高齢者を中心に孤立は深まっています。「コロナフレイル」などと称されるように、孤立から生まれる健康被害も深刻で、要介護申請率も急増しています。感染対策をしつつ、つながりを再構築し、維持することは喫緊の課題です。さらに、孤立の予防と解消に向けては、地域の中で役割を持つことが重要です。そのためには、世代を超えた地域のコミュニティを作っていくことが重要です。

よって、様々な世代の集まる場所の構築と、そのそれぞれが交流する仕組みづくりを行っています。

### 活動状況：

#### ①多世代交流サロン

緊急事態宣言下では休業。及び、近隣で感染が増えている状況では極力屋外での実施をしています。そのため、屋外に「テラス席」を作成。温かい日はなるべくテラス席を使用しています。結果、通行人との交流が生まれ、屋内とは異なる副産物を得ました。

参加者4月－9月

3097人（内、学生：1389人 グループホーム利用者：57人）

#### ②地域食堂

感染拡大により、屋内での実施は断念。配食としています。月に一回の配食で、若者が同居高齢者を中心に配達しながら、健康状態の確認を行います。

#### ③ソーシャルシェアハウス

入居者4名。入居者がサロンに来たり、地域食堂の配食を行ったり、④グループホームの世話人になり、地域サロンとつなげたりしています。また、広報誌を近隣の方に配って歩くなどをして地域との交流を進めています。

#### ④障がい者向けグループホーム

現在入居者、2棟で7名。地域サロンにきて地域の方々や若者との交流が見られます。また、直近では以下の事例がありました。

- ・アルコール依存症の独居男性が入居し、つながりが生まれたことで「寂しい」というアルコールの原因が断たれ、アルコールを飲まずに、草むしりなどで地域に貢献。
- ・兄との二人暮らし、60代。兄からの虐待にて三食食べられず、入浴もできない生活を送っていた知的障害の方。グループホーム入居にて、生活の立て直し。安定した食事や入浴はもちろん、地域サロンで交流し、笑顔多く見られる。

グループホームという受け皿を作ったことで、高齢分野に留まらず、貧困・虐待などの事例にも対応することができています。

また、①-④があることで、様々な入り口から「ごちゃまぜ」のコミュニティを作っています。本助成金の性質とは合わないかもしれませんが、こういった活動の初期投資を補助金・助成金で対応しつつ、事業全体としては経営的にも独立できるモデルを目指しています。

#### 今後の活動予定：

今後は、緊急事態宣言の解除に伴い、サロンの再開、屋外イベントの実施などを行なっていきます。加えて、感染対策、ワクチン摂取をすすめ、①-④の交流を促進していきます。

さらに、こういった活動を志す者同士のネットワークの構築のため、勉強会を実施してきましたが、参加者が予想よりも多く、活動の広がりも見えました。よって、プロジェクター・スクリーンを購入し、感染の収まりを見つつ、オフラインでつながりながら実施できる環境も整えていきます。



地域サロン、テラス席



配食



若者と地域高齢者 共同作業



地域づくり勉強会 一部オフライン